



『多度大社白犬伝説とおぐらマーガリンの関係』



新年明けましておめでとうございます。どうぞ本年もよろしく願いいたします。そして年末年始工事、ご協力ありがとうございました。見たい『紅白』も『K-1』も『箱根駅伝』も見ずに作業にご協力していただきまして深く感謝いたします。

私は元旦、2日と多度の方に工事に行っておりました。多度大社から近いので何かご利益があるかなと思っておりましたが、突然『彼』はやってまいりました。**『多度の白馬伝説』ならぬ『多度の白犬伝説』**でした。昼休みに工場の外にある公園で昼ご飯を食べていたのですが、そこに1匹の白いのら犬がやってきたのです。それを田中さんを見つけ、
「あの犬お腹すかせてそうだからパンでもやろうか」と言いました。しかし私は上郷でよく昼休みに野良猫に弁当を分けてやっていて、くんくんと匂いを嗅ぐだけでいらねーよという態度をとられていたトラウマがあってか、
「田中さん、舌肥えてるからどーせ食べないよ」とアドバイスしたのですが、
『いや、あの犬は絶対腹をすかしとる！』とってパンを投げてやると、本当にお腹がすいていたらしく、怯えてしっぽを下に垂れ下げながらも、むしゃむしゃと食べ始めました。

今年はイヌ年です。みなさん、今年の田中さんはご利益ありますよ。**肘がいたい人は田中さんの肘を、腰がいたい人は田中さんの腰を**さすってみてください。必ず良くなります。ただし、くれぐれも一言断ってからにしてください。突然撫で始めたらアブナイ関係が構築されるやも知れませんが(笑)。

この犬はもともとは飼犬で、飼主主に捨てられてから人間にいじめられてきたのでしょう。何度も何度も周りを警戒しながら、投げられたパンに恐る恐る近寄って行って食べる姿に、
『明日また来いよー！！』と言って別れました。そして次の日。我々は工事道具の準備もさる事ながら、パンの準備も万全で昼休みの公園に臨みました。しかし『彼』は来ていませんでした。**やっぱり犬には12時はわからんなあ**と諦めかけていたところ突然、多度の裏山から『彼』は降りて来たのです。

キタ (*) (*) !!と言う感じで一同感激！！さっそくパンをやり始めました。昨日は1.5メートルまでなんとか接近できたので今日は手の上のパンを食べさせるのが我々の目標でした。

ところがなかなか『彼』の警戒感と人間に対する不信感は拭い切れず、50センチ付近までが限界でした。しかしなんとか遠い記憶の中で、昔ご主人様に教えてもらった『おすわり』を思い出したらしく、パンが全部なくなってからも、『彼』の安心できる距離感である、車から10メートル離れたあたりにちょこんとお座りしている『彼』の姿をいとおしく思い**『なんとか頑張って生きぬけよ〜』**と心の中で強く思いました。と同時に**『犬も人間も同じだなあ』**と感じました。

世の中には楽観主義者と悲観主義者がいます。何をやっても上手くいくだろうと思って積極的に実行する人もいますが、反対に何をやっても失敗することを頭に思い描いて行動できない人もいます。

普通、人は心の中でこの楽観主義と悲観主義の間で綱引きをしながら生きています。この犬の場合、楽観的に愛嬌を振る舞いしっぽを振って手の上のパンを食べられるなら、いろんな人からかわいがられもっとたくさんの食べ物にありつけるでしょう。しかしどこかで人間にひどい仕打ちを受け心と体に傷を負い、それ以来悲観主義犬となってしまっています。しかし、かといってそれが決して悪いわけではないと思います。その悲観的視線、身のこなし、人間に対する距離感があるがゆえに、保健所の追手から逃れ、年間40万頭の犬が『安楽死』という名のもと『ガス室』に送られている現実から逃れられている、と見ることもできます。**10メートルと言う距離は『彼』が生存する為の本能、あるいは神様からさずかった知恵であるのかもしれない。**

人にもそれぞれ『自分の距離』と言うものがあります。それは子供のころから現在にいたるまでに自分でなんとかかんとか作り上げてきた『とても大切な距離』だと思えます。『距離』は『気質』と言いなおしてもいいと思います。みんなが**『お互いの『距離』をいたわりつつ、品質確かな仕事をご安全に』**やっていたら、神様から『ポーン』と『おぐらマーガリンパン』でも飛んでくるのではないのでしょうか？

今年はそんな感じがします。もしそんなラッキーに出会ったら楽観主義者は油断なく、悲観主義者は指差呼称を繰り返しながらチャンス逃すことなく『パクリ！』と食べてもらいたいものです。ただし幸福のキーマンは田中さんです。世の中は因果 応報ですから。
感謝！！ 羽原篤史 

